

J - クレジット制度管理者 御中

## 実績確認概要書

平成30年1月26日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

### 1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	むいかいち温泉ゆららにおける木質バイオマスボイラー導入による省エネ事業
承認番号	KC0093
排出削減事業者名	吉賀町役場
排出削減共同実施事業者名	ESカーボンクレジット合同会社 (その他関連事業者名：株式会社荒谷建設コンサルタント)
事業実施場所	むいかいち温泉ゆらら (住所：島根県鹿足郡吉賀町有飯238番地2)
事業の概要	吉賀町を中心とした近隣地域の切捨間伐材等を燃料とした木質バイオマスボイラーを導入することでCO2排出量を削減する。
排出削減量の計画	2009-12年度： 343 tCO2 2013年度： 330 tCO2 2014年度： 331 tCO2 2015-16年度： 333 tCO2 (事業実施期間合計 2,699 tCO2)
クレジット認証期間	開始日 2009年4月1日 終了日 2017年3月31日
排出削減方法論	方法論番号 001-A：バイオマスを燃料とするボイラーの新設

## 2. 本実績確認の対象期間

2013年4月1日～2017年3月31日（第4回目実績報告）

## 3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	1,603tCO <sub>2</sub> (2013年4月1日～2017年3月31日)
-------	---

## 4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。 2) 対象期間中の設備稼働の確認 バイオマスボイラーは実績確認期間中、継続的に稼働していることを、現地視察、燃料の木質バイオマスの購入記録、バイオマスボイラーの稼働記録にて確認した。□□
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 審査関係者への質問、木質チップ購入伝票、水分量分析結果等の確認により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従い、適切なモニタリングが実施されていることを確認した。 2) 活動量の正確性 関係者への質問、木質チップ購入伝票等の確認により、承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画通り、木質バイオマス購入量・水分量等の記録・保存が適切になされており、正確に集計されていることを確認した。 3) 単位発熱量、排出係数等の確認

	<p>排出削減量の算定式及び使用されている単位発熱量、排出係数等が、J-クレジット制度・モニタリング・算定規程(排出削減プロジェクト用)Ver2.9 及び承認排出削減事業計画通りであることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 事業実施後排出量、ベースライン排出量、リーケージ排出量、排出削減量の算定結果を根拠資料と突合、方法論の定めた計算式との照合、計算過程の確認、再計算等を実施した結果、排出削減量の算定結果が正確であることを確認した。</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>今回の実績確認対象期間は 2013 年 4 月 1 日から 2017 年 3 月 31 日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了日は 2017 年 3 月 31 日となっているため、当該算定結果は適切であることを確認した。□</p>

## 5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

今回の検証期間から、チップ原料のスギの発熱量を実測値から、Jクレジット制度デフォルト値に変更しているが、H27年8月以降はさらに木質チップの樹種をスギから広葉樹に変更したこともあり、Jクレジット制度デフォルト値（複数の広葉樹）に変更している。この1回目の変更は、排出削減量を保守的に算定する効果があることを確認している。

## 6. 特記事項

排出削減量が大きく落ち込んでいる原因として複数の要因がある。

- ・ チップの発熱量計算に際し、スギの発熱量を実測値から、J クレジット制度デフォルト値に変更した
- ・ バイオマスボイラー付属のファンやボイラー内壁のレンガの剥離による影響で、1ヶ月近くバイオマスボイラーが使用出来ない期間が複数回発生している（稼働率の減少）。
- ・ スギの含水率が高く、チップに含まれる水を飛ばすためにチップが消費されている側面もあることから、検証期間中により水分量の少ない樹種に変更した。

以上が削減量が大きく変化している原因であると想定される。

（稼働していない期間は、化石燃料ボイラーを稼働させていることを実績表にて確認済）

排出削減量に相当する再生可能エネルギー利用量について、熱量換算で 25651.7GJ であることを確認した。

以上